

平成30年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事要旨

(1)会議名称	平成30年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議							
(2)開催日時	平成30年7月31日 10:00～12:10							
(3)開催場所	我孫子市役所 議会棟 第1委員会室							
(4)出席者	委員							
	出	山内 智	出	熊田 雅弘	出	大炊 三枝子	出	白土 健司
	出	林 健一	欠	門脇 伊知郎	出	高橋 裕子	出	山岸 由紀子
	出	坂巻 弘一	出	小澤 誠一				
	事務局							
【企画課】長谷川課長、相良主幹、井下田主査長、滝川主査、塚田主査								
(5)議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の評価の流れについて 2. 平成29年度地方創生推進交付金の活用における効果検証について <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金の活用における効果検証シート ・平成30年度地方創生推進交付金の活用 3. 重要業績評価指標（KPI）の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> ・産業拠点検討調査について 4. 今年度の評価方法について <ul style="list-style-type: none"> ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略中間評価表（平成29年度分） 5. 今後のスケジュールについて 6. その他 							
(6)公開・非公開	公開							
(7)傍聴人の数	1人							

(8)会議の内容

1 今年度の評価の流れについて

事務局より資料に沿って説明を行った。

意見等

- 意見、質問等特になし。

2 平成29年度地方創生推進交付金の活用における効果検証について

事務局より資料に沿って29年度地方創生推進交付金を活用した事業及び今後の評価方法（分科会形式での評価）について説明を行った。

意見等

- 議題2についての、資料2及び資料3について事務局より説明を行った。我々有識者

としては、事業評価について、K P Iの達成①（大いに効果があった）・②（効果が合った）・③（あまり効果がなかった）のどういう形で貢献をしたのかという観点と有識者の意見についてまとめていただく形となる。評価するにあたり、表の見方あるいは、作業を進めるにあたって確認すべき点等があったら事務局に説明を求めたいと思うが、ご覧になっていただき何か質問、意見等はあるか。（林委員長）

- 1点確認だが、今回K P Iが3つ設定してあり、K P I③の「スポーツボランティア養成講座の受講数」については、オリンピック・パラリンピックの推進事業等の関連があるとの説明であったが、K P I①については、2の事業「手賀沼沿いウォーターサイド整備事業」と関連性がある形として見た方がよいのか。それとも全体としてK P I①・②・③について貢献しているのかどうかの観点から見た方がよいのか。施策単位的にK P Iと関連付けて見た方がよいのか。（林委員長）
- 全体的に評価ができればよいと考えるが、必ずしもK P Iに結びついてない事業もあるので、その事業については個別に見ていただきたい。例えば、交付対象事業「4. 移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業」の「②ビジネス交流会の実施」や「③我孫子市産業拠点検討調査業務」は、K P I③の「スポーツボランティア養成講座の受講者数」とは、関連していないので、K P I①とK P I②に繋がっていけばよいと考える。事務局側の評価イメージとして、交付対象事業を1・2・3・4と大きく分けているので、交付対象事業ごとに一度評価していただき、総合的にK P I①・②・③に繋がっていけばよいと考えている。交付対象事業1・2・3・4にK P I達成の効果があったかどうかを評価していただきたい。（事務局）
- 説明いただいた観点で進めていく。（林委員長）
- 今回の交付金対象事業の中には、結果的に交付金が充当できず、市単独で実施した事業もあるようだが、そのような事業も評価の対象とするのか。それとも交付金を充当した部分だけを評価するのか。（小澤委員）
- 今年度の会議の中で評価・検証していただく項目は主に2つあり、1つは本市総合戦略全体の進捗評価で、もう一つが国の交付金の交付を受けて実施した事業の効果検証となる。交付金事業の効果検証の中では、実際に交付金が充当された部分のみを評価していただき、交付金が充当できなかった事業の効果については、戦略全体の進捗評価の中で、併せて検証していただければと考えている。（事務局）
- 交付金対象事業の各K P Iにある入場者数や来訪者数は、どのようにカウントしたもののか。（小澤委員）
- アビシルベの来訪者数については、センター内でカウントしている。また、手賀沼親水広場・農業拠点施設の入場者数については、売上等の計数を掛けて算出している。（事務局）

3 重要業績評価指標（K P I）の見直しについて

事務局より資料に沿って説明を行った。

意見等

- 意見、質問等特になし。

4 今年度の評価方法について（分科会形式）

委員が二班に分かれ、評価方法及び評価を行った。

A班【基本目標1・2】熊田副委員長・山内委員・大炊委員・白土委員・門脇委員

B班【基本目標3・4】林委員長・高橋委員・山岸委員・坂巻委員・小澤委員

意見等【A班】

平成29年度地方創生推進交付金の活用における効果検証

1. 地域資源を活用したスポーツ推進事業

- 今までの事務局説明の中で何か確認していただきたい事項はあるか。（熊田分科会長）
 - 29年度の振り返りと30年度実行中の事業が混同している。29年度の事業評価は振り返りだけでよいのか。（山内委員）
 - そのとおりとなる。（事務局）
 - 議題3のKPIの見直しについては、30年度の事業となるので、29年度と30年度の事業をしっかりと分けて進めた方がよい。（山内委員）
 - 資料3の説明がなかったので、説明していただきたい。（熊田分科会長）
- ※事務局より資料3に沿って説明を行った。
- 資料2は、29年度に実施した取り組みとなり、資料3は、30年度に取り組む事業となる。（事務局）
 - 厳しい意見を言えば、29年度にKPIを設定して事業を実施していくのはよいが、定期的に進行状況を確認しているのか。30年度も事業を行っていくが、例として、スポーツボランティア養成講座の受講者を7人募集して、途中で1人挫折したら未達成となる。目標数値を7人と設定しているのに、1人休むだけで達成しなくなることがよいのか疑問となる。（山内委員）
 - 修了条件は、細かく定めているのか。（熊田分科会長）
 - 未達成の理由にもあるとおり、前年度は講座を3回開催し、全3回を受講しないと修了したことにはならないということがあった。山内委員の意見のとおり、厳しい実情があった。今年度は、文化・スポーツ課で実施しているが、1回に集約して実施する。29年度は参加費を徴収して実施したが、30年度は無料にしているなど、そういう修正は考えている。（事務局）
 - できるだけ達成できる方法で実施しないと、KPIを設定しても「達成できるかできないか」の設定では達成はできないと思う。確実に達成できる目標数値にしないと永遠に達成できず交付金が交付されなくなると思う。そこで、緩くするというのではないが、やり方はあると考える。（山内委員）
 - 29年度の「東京オリンピック・パラリンピック推進事業」は、未実施なので評価できない。（山内委員）
 - 企画課から文化・スポーツ課に事業が移管されているが、新規事業に着手するのは企画課となるのか。（熊田分科会長）
 - 新しい事業において、所管課が定まらない事業については企画課で実施し、ブラッシュアップしてから移管することが多い。スポーツボランティア養成講座については、

手賀沼チームランを開催するにあたりボランティアとして参加してもらうため養成講座を含め企画課にて実施した。チームランはスポーツイベント事業となるため文化・スポーツ課に事業を移管している。(事務局)

- 新しい事業に関しては、企画課で行う傾向があるのか。(大炊委員)
- そのとおりとなる。オリンピック・パラリンピックに関しては、一時兆候として企画課で行っていたので、企画課である程度整理して、各所管に移管している。(事務局)
- スポーツボランティア養成講座に関しては、オリンピック・パラリンピックが終了したら事業としても終了となるのか。(大炊委員)
- スポーツボランティア養成講座については、オリンピック・パラリンピックの機運を高める設定はあるが、市内で行うスポーツイベント(チームラン・エコマラソン・新春マラソン等)でボランティアとして参加していただく方々を養成する目的もあるので、今後も継続して事業を行う予定となる。(事務局)
- 受講者側のメリットはなにか。(熊田分科会長)
- 受講者として参加した方の中には、オリンピック・パラリンピックのボランティアとして参加したいと考え、勉強として受講していた。また、ボランティアとして、市の活性化に手伝いができないか考えていたため参加した方もいた。(事務局)
- ボランティア参加優先権みたいなものがあればよいと思う。(熊田分科会長)
- 台帳などを作成し、我孫子市のスポーツボランティア台帳に登録された方は優先するなどを行えば、より活用しやすいし資格を取得することに意義がでてくる。そうすれば、目標受講者数はあつという間にクリアできる。(熊田分科会長)
- 市内のスポーツイベント開催時にはお知らせしているが、優先権などモチベーションを上げる取り組みは必要であると考えている。(事務局)
- 特に1回目の養成講座は、有料であった。(熊田分科会長)
- スポーツボランティアの養成講座を受講しないと、ボランティアとして参加できないのか。(白土委員)
- そういことではない。(事務局)
- スポーツボランティア養成講座はどのようなことを行うのか。(白土委員)
- 川村学園女子大学の先生を講師として招き、ボランティアとしてどういうところに気を付けなければならないか等の気構えや実際にどういう動きをするのか等の講義を行った。実技はない。(事務局)
- スポーツボランティアは、各大会によって求められる行動やパターンが違う。例えば、国体とゴルフ大会では求められるものが違う。スポーツボランティア養成講座は、結果としてオリンピック・パラリンピックを目指して養成するという理解でよいのか。(白土委員)
- 2本柱として、オリンピック・パラリンピックを目指すことと市内のスポーツイベントの参加を目指して実施した。(事務局)
- 優先というより、必ず参加していただく形がよい。費用を負担して実施するのであれば、市内のスポーツイベントに関しては、参加をお願いします。(白土委員)
- そういう期待を込めて、スポーツイベント開催時にはお知らせを行っている。(事務局)
- 有識者の意見としてまとめると、評価はできない。それがつまり③の「あまり効果が

なかった」になると考えるが、現段階では評価できない。(熊田分科会長)

2. 手賀沼沿いウォーターサイド整備事業

- ①水辺のランニング・ウォーキング環境の整備、②鳥の博物館での特別企画展の実施、③手賀沼親水広場の運営④我孫子産農産物の品質向上のための生産履歴システムの導入をセットで評価するでよいか。(熊田分科会長)
- セットでの評価となる。①～④は、2、「手賀沼沿いウォーターサイド整備事業」にぶら下がる事業となる。(事務局)
- ④の「我孫子産農産物の品質向上のための生産履歴システムの導入」は大炊委員が関連してくると思うが。(熊田委員)
- 具体的に説明すると、現在、人的な部分で生産履歴をチェックしているが、チェックする方の高齢化や後継者不足があるため、機械が変わって実施するシステムであると理解していただきたい。生産者の方が自分の番号をインプットするとその情報で農産物が生産履歴システムを通っているのか判断されて、生産履歴を提出していなければ券が発行されないというシステムだと理解している。本来、29年度から実施ができていた事業であるが、委託事業者が辞退したため、30年度に再度予算を要求する。導入時期がいつになるのかが問題となる。生産者が増えているため人的な部分でどれだけできるのかがあるので、将来的には必要なシステムになると考えている。(大炊委員)
- 人的チェックをシステム化するという話だが、人的チェックはシステム化されなくても続けられるのか。(熊田分科会長)
- あくまでも機械だけだとマニュアル的な部分しかできないので、人的チェックは必要になってくると思う。人的チェックを受けたものを機械に読み込ませる。私も専門的ではないのでわからないが、並行で実施していくものと思っている。(大炊委員)
- 農政課が主体で行っているが、農政課がタイミング的にまだ大丈夫だと判断していることになるのか。(熊田分科会長)
- 早く導入したいと考えてはいるが、結果的に交付金が申請の関係で30年度の途中からとなっている。(事務局)
- ①～③まではどうか。(熊田分科会長)
- 概ね③までは、実施したことに対して効果があったと思う。④は当初事業ではない部分で進んでいるので、評価に入れてくるのはどうかと思うが、③までは概ね効果があったと判断できる。④がややこしいのは、生産直売所で売るためのものの商品に、農産物の認証システムということで、観光客や近隣の方が訪れるという部分では概ね正攻法だと考える。ただし、今後、直売所に出していきたい農産物を「安心・安全できちんと管理してますよ」という将来的な部分がミックスされているので、当初から同時に進んでいけば、こんなに事業が遅れることはなかったと思う。「生産者が記載してくれていればよい」と考えていたのか、それとも最初から「システムチックにどんどん売り込む」という部分で考えていたのか。我孫子市の農家は先ほど説明があったとおり高齢化している。いちいちパソコンに使った農薬を入力して管理している農家ではない。そういうことを考えると今後の部分でいけば、やろうとしていることは効果が

あると思う。(山内委員)

- ④は、「農産物の指定・認証を受けたものを販売していますよ」という効果を狙っていると思う。実施したら実施したで当然効果がでてくる。トレサビリティがしっかりしている野菜を販売しているということを狙っていると思うが、実施していないので評価はできない。①～③は、どれくらい効果があったか測りづらいものであると思うが、来場者数が増えていたので、効果が認められているのだろうと思う。例えば、パンフレットを配布する前と配布した後どう変わったのかわからないので、実施したことが良かったのか悪かったのかの評価であれば、「実施してよかったのでは」という評価になる。(白土委員)
- プランが見えにくい(熊田分科会長)
- 実施した結果がよくわからないので、評価できるのかできないのか判断できない。「これ実施しました」と言われているだけなので、実施する前と実施した後どこの何が変わったのかわからない。確かに、「来場者数が増えましたというところが成果です」と言われれば、効果があったとなる。防犯カメラを設置したから、防犯に役だったとかゴミを置いていく人が少なくなった、鳥の博物館の駐車場に長時間駐車する車が減った等具体的な成果が見えない。(白土委員)
- 施設を修繕するという事は、リニューアルを含めて投資をするわけなので、効果がないことはない。(山内委員)
- 効果がないことはないと思う。(白土委員)
- 実施したことによって効果はあったと思う。具体的な数字は言えないが。(山内委員)
- そういった面での、例えば、見た目が良くなる等は効果が認められるものである。(白土委員)
- 今後、30年度事業が進んでいるわけなので、より具体的な数字を並行して出していないと測定できない。(山内委員)
- そのとおりで、目的と効果が示されていないので、実施したことが記載されていて、何の目的で実施して、その効果がこうであったということが記載されていない。(白土委員)
- 生産履歴システムの導入も、今まではこうだったけどチェックが厳しくなって持参する野菜が減少したら効果測定は減る。(山内委員)
- 来場しても今まで沢山野菜があったのに検査が厳しくなったから出荷数が減るとなると、来場する人の魅力が減る。(白土委員)
- より手間暇が掛かって値段が上がってしまうと購入してもらえなくなる現象が起こる。そこをどういう風に持っていくのかになる。(山内委員)
- 安全性を高めて来場者数を増やすKPIであれば良いと思うが、農産物だけを取って売り上げを伸ばしたいというのは、なかなか難しい。農産物は、天候もあるし今年みたいに暑かったら農作物が成長しなくその時点で厳しい。来場者数をKPIに設定したのであれば、ぶれないでそれに徹するべきである。(山内委員)
- 農産物直売所の生産履歴システムというのは、他の直売所との差別化の部分で出てくる話で、「うちの直売所は確実に生産履歴システムを通過していますので安全・安心な農作物を作っています。」という裏付けになり、お客様に説明ができる。その安全・安

心を求めて来場していただくお客様を沢山集めようということになるが、農家側にとっては、やはり今までの意見を伺うと1つハードルにもなり、「そこをクリアするのは、面倒だからいいや」ということになってしまうと、農産物の提供が少なくなり逆効果の可能性もある。しかし、安全・安心の農産物を提供しているから農産物の価格が若干高くてもという説明になっていくと、農家にとっては高い農産物として販売できるメリットなど理屈ではそうなってくる。如何にしてアピールしていくのかが今後の問題となる。(大炊委員)

- 普通のスーパーでもそういう風にやっている物、すべてではないがそういう物は若干割高にはなっている。(白土委員)
- エコ農産物はそうになっている。(大炊委員)
- 当方でいえば「顔見え野菜」というものがある。QRコードがありすべてが表示される仕組みがある。トップバリュー等自社のPB(プライベートブランド)に関しては確立している。我孫子市の野菜となれば大手は参入できない。それは進めるべきと思う。しかし、それによって、「コストが上がり値段が上がりますよ」というのは、消費者の方が認めるかといえば、それは無である。そういう方もいると思うが、8割位のお客様はやはり鮮度と価格で動いているので、そこがずれるとそれを実施したから高く売れるというのは間違いと考える。そうしたいというのはわかるが。(山内委員)
- 現実そうである。同じような商品が並んでいた場合には、やはり10円でも安い価格のものをお客様は選ばれる。それによって値段を高くするという事は、売れなくなるのが現実となる。同じ価格でどちらを選んでいただくかとなったときに、安全の裏付けが必要となる。(大炊委員)
- その建前を本音にすればよい。安全・安心を謳って来場者数を増やす。そうすれば、建前が本音になる。(熊田分科会長)
- 「行ってみようか」の動機付けになる。(山内委員)
- そうすれば、単純に来場者数でKPIが上がりわかりやすい。9月に補正予算を組んでいるが、今年度中に結果はでるのか。(熊田分科会長)
- 9月補正に予算計上する。(事務局)
- そうであれば、有識者会議の第2回か第3回に方向性がでる。(熊田分科会長)
- 第3回の有識者会議が9月下旬となるので、その時には議会に諮った結果がでる。(事務局)
- そうすると本日の検証では、④「我孫子産農産物の品質向上のための生産履歴システムの導入」は評価できない状況となる。①～③については、「手賀沼親水広場プラネタリウム管理運営事業」の対象外事業はあるが、効果がなかったとは言えないということで、「②効果があった」とする。(熊田分科会長)

3. 我孫子の魅力発掘・発信・シティーセールス推進事業

- 白土委員は、我孫子でこういう事業を行っていることをご存知でしたか。(熊田分科会長)
- 知らなかった。(白土委員)
- 千代田線や駅ナカ等で実施している。(熊田分科会長)

- 市のホームページ等でも公開しているのか。(白土委員)
- 市のホームページ内の魅力発信サイトを作成し掲載している。直接掲載しているのではなく Youtube に誘導する形となる。(事務局)
- 先ほど白土委員からの意見があったとおり、実施してどの位効果があったのか、人口がどの位増えているのかが見えづらい。29年度は、社会増減で言うと社会増にはなっているが、シティーセールスが功を奏しているのか確認することが難しい。今年の1月から転入者向けにアンケートを行っているが、シティーセールスを見て我孫子に移住を決めたという方は少ない。「きっかけとなった」という方はいるが、どこまで効果があったか直接的数値として測るのは難しいところがある。(事務局)
- Youtube の閲覧数はでているのか。(白土委員)
- 資料5の事業21「シティーセールス動画へのアクセス数」に、PV（プロモーションビデオ）だけではないが、我孫子魅力発信チャンネルとして Youtube に掲載している動画がいくつかある。それらの総計として、29年度実績は34,296回、28年度の実績は25,023回なので微増している。28年度に記載されている実績値は、26年度からの累計となる。29年度の実績からは、単年度指標に変更して実績値を記載している。(事務局)
- 昨年度は、単年度指標と複数年度指標の区分けをしたと思うが。(熊田分科会長)
- 資料5には、記載されていないため第2回の会議時に提示する。(事務局)
- 「るるぶ」みたいなものを我孫子市として作成しているのか。(白土委員)
- 作成していない。他の市町村では「るるぶ」や「マップル」等を作成している。我孫子はそういう形態では作成していないが、「ABI ROAD (あびろード)」という我孫子版のガイドマップを作成している。なるべく若い方々が手に取りやすいよう旅行会社のパンフレットに近いような形で作成している。(事務局)
- 我孫子・柏・松戸の情報が一緒になっている「るるぶマップ」等の作成もよい。(熊田分科会長)
- 前に所属していた八街市では作ってあった。(白土委員)
- 少し前では、印西市や取手市で作成していた。おそらくその時に何らかの交付金が交付されていたのかもしれない。(事務局)
- 本日は、意見交換に留めておき、門脇委員が出席した時に評価する。おそらく効果はあったと思うが根拠付けが難しい。(熊田分科会長)

4. 移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業

- ①「企業個別相談会の実施」、②「ビジネス交流会の実施」は、例年事業として事業内容が見える。③「我孫子市産業拠点検討調査業務」は、先ほど事務局から説明があった指標となる。(熊田分科会長)
- これについては、③「我孫子市産業拠点検討調査業務」の評価はできない。①「企業個別相談会の実施」と②「ビジネス交流会の実施」についてはどうか。(熊田分科会長)
- ①と②に関しては、千葉県の商工労働部で行ったクラウドに参加している。10ヵ所位で起業家の交流会を県が開いて、そこで起業家のプランを発表していただき、選ばれた方々が最終的に改善して発表するという取り組みを行っている。昨年度から、ア

フターフォロー事業が必要になり、おそらく会議所はないので、商工会か産業経済関係の部の方で起業家に対し、アフターフォローを行う仕組みがあるはずである。(白土委員)

- おそらく我孫子市では実施していない。実施していないのであれば、所管課に照会する。(事務局)
- クラウド交流会という名称となる。(白土委員)
- ただし、国から降りてくる予算として、10ヵ所程度で実施できる予算でしかない。(白土委員)
- 手をあげて定期的に実施しているのが銚子市等となる。昨年度は、八街市でも実施した。(白土委員)
- 我孫子市は、個人商店の他に約933の事業者がいる。(熊田分科会長)
- そんなに多くはない。(白土委員)
- その中で、ビジネス交流会の参加人数が35名は数として少ない感じではある。(熊田分科会長)
- 我孫子市として単独でできないのであれば、周辺市町村と実施できる仕組みもある。市町村の行政の方で連携するのか、商工会等で連携するのか、その場所によって連携の仕方はさまざまとなる。起業関係となるので青年部課が中心となっていた。(白土委員)
- ①の相談者の中から2名が起業してくれたのであれば、実施しないよりはいい。多い少ないは、そういう場を設けて広げていかないと人数は増えない。(山内委員)
- どういう形で、募集したのかがよくわからないが、市内だけで見れば法人事業者の内35名の参加であれば、そんなに悪くはない数字だと思う。(白土委員)
- 1ページ目の「交付対象事業の概要」の4「移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業」の中に、「金融機関や商工会と連携して実施する」とされているが、この辺りはどうか。(熊田分科会長)
- 商工会と連携して実施し、場所も商工会で行っている。商工会が講師やコーディネーター等を招いて実施している。(事務局)
- 中身となる。あくまで、自分の店だけで工夫したいのか。その辺がわからない。(山内委員)
- 4.「移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業」に関しては、様々な意見があったが、相談者の中から2名起業したことで、市内の法人・個人事業者間でのネットワークづくりができたであろうというところで、評価は②の「効果があった」とする。(熊田分科会長)

平成29年度我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略中間評価

- 資料5「我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略施策評価表(平成29年度分)」も本日、評価を実施した方がよいのか。(熊田分科会長)
- 資料5については、今回の会議で確認を行っていただきたいのが、昨年度の引き続きの評価として、どういう形で評価を行うのか。昨年度と同様に評価を行うのか等、評価方法を改めていただきたい。また、グループに分かれて評価を行っているが、グル

ープ間どうしでの情報の共有をどういう形で行ったらよいか、協議していただきたい。(事務局)

- こちらのグループは、基本目標1「あびこを支える産業を応援し、いつでも働けるまちづくり」と基本目標2「あびこの魅力があふれ、にぎわいを生むまちづくり」の2つがある。資料5には、基本目標1・2に向けた施策が記載されていて、ページ数でいうと7ページとなる。(熊田分科会長)
- 1ページ目の「1、産業拠点創出事業取組み地区数」では、目標値を「地区数」にする意見がでている。(熊田分科会長)
- 4つ掲げた地区の内から、商業系1地区・工業系1地区ということか。(白土委員)
- そのとおりとなる。所管課としては、下ヶ戸(天王台のNECや川村学園)付近の地区が、調査の結果として、商業的活用としての価値が一番高い地区と考えている。他の3地区の内、どこか1地区を工業系の活用として取り組んでいきたいと考えている。31年度の目標として、その2地区(商業1地区・工業1地区)という考え方をしている。(事務局)
- 8月2日に協議があるということで、市の方向性を決定することになっている。(熊田分科会長)
- 山内委員に確認だが、商業地区として10haの広さで活用できるのか。(熊田分科会長)
- 駐車場含めてとなるのか。(山内委員)
- そのとおりとなる。(事務局)
- そうなると、今、流行っているモール系は少し厳しい。いわゆる中規模的な商業施設しか呼べないとなると、週末ファミリーで行ける施設ではないと規模的に考える。(山内委員)
- アリオ柏はどの程度か。(大炊委員)
- 20ha位となる。駐車場も4,000台確保している。(山内委員)
- 商業と工業と住宅地が混在しているのを「まとめましょう」というのが、最初の考え方だと思うが、例えば、商業地区を1カ所に集めるというコンセプトだと、「実際それってどうなんですかね」と若干思うところがある。大規模なショッピングセンター等は、運営がだんだん難しくなっているような気がする。逆に、皆さん歳を取ってくるので、徒歩圏で行ける生鮮品を扱っているところが安定し、需要を保っている。商業施設を1カ所に集めて、「どうなのかな」と考える。大規模施設は飽和状態ではないが、かなり数も増えてきている。数が増えているということは、商圈が重なりあってくるので、人の取り合いとなる。市内の事業者が集まるので、お客が来なくなった時に企業的に耐えられるのかというところがある。(白土委員)
- 流れがあって、当初は、商業系は入っていなかった。工業系を集団化しようという発想はあるが、商業系を集団化しようという発想はまだない。商業系については、10haを1者で使うのかどうなのかの部分はこれからの検討となる。まずは、2地区に絞る。(熊田分科会長)
- それでは、その段階ではなく、取りあえず候補地をあげるところまでなのか。(白土委員)

- そのとおりとなる。我孫子市はコンパクトシティとして、駅を中心に我孫子地区ではイトーヨーカ堂、天王台地区では、おっ母さん食品館等色々ある。成田線沿いも生活用品を販売しているところがあり、各地区でコンパクトシティがある程度成立している。商業系地区に中規模のモールを呼ぶとそこに人が集まり、元々の地区が衰退したらどうなるかというところは、所管課の商業観光課でも懸念しているところである。しかし、我孫子市は商業系が弱いと言われていることも課題としてある。例えば、映画館もなく他にもない施設があるので、我孫子市にないものができたらよいと若者のプロジェクトチームの意見として出ている。実際どういう施設を誘導していくのは、今後の検討課題となる。(事務局)
- 逆に、これを作ったとしてもあまり集客ができないのではないか。(白土委員)
- 我孫子市は、もともと住工混在解消がメインで考えていて、その種地は40年位ずっと検討している。やっと4地区の内どれかが良いとなった。商業展開に関しては、誘致に係るところがある。説明でもあったが、我孫子市は、各駅前で生鮮関係は歩いていける距離にある。駅生圏1km位のところには生活圏があるので、コンパクトシティとして、地勢的にもそういうところとなる。とはいえ、誘致の種地として、今回4地区をあげている。通常まちづくりは、職・住・遊・学とよく言われる。我孫子市は、職と遊がない。住宅都市として来てしまった。そういう意味で、うまくマッチングができればと考える。集約するという形ではなく、誘致を考えていければと思っている。(事務局)
- シルバー人材センターの登録者数が減っているのには理由があるのか。おそらく対象者は増えている。(白土委員)
- 母数は増えている。高齢者支援課では把握していないと思うので、直接シルバー人材センターに確認する。(事務局)
- 世代が変わってきたこともある。(事務局)
- 関心がない方が増えていることも要因としてあるかもしれない。(白土委員)
- 団塊の世代の方々は意欲があったと思う。(事務局)
- 次に施策「農業の生産性の維持・向上」を検証する。(熊田分科会長)
- 目標値はこのままで良いか。(熊田分科会長)
- 基準値31.4haに対して目標値が39.4haになっているが、あくまでも目標値として現実味を帯びているかが問題であると思う。現状、農業者が高齢化していくなかで目標値が達成できるか心配なところはある。(大炊委員)
- 「30年度の事業の今後について」に、45経営体が手賀沼沿いの農用地等活動事業補助金を申請しているとなっているが、これを見ると45経営体が増えるように見える。また、根戸新田においては、排水対策工事を実施し、排水不良農地の改善を図っている。(熊田分科会長)
- 根戸新田地区は排水が悪いということで、ここ数年、排水対策工事を行っている。根戸新田に住んでいる一般農家はなかなか後継者が少ないという話を聞く。この地区の農地がうまく活用されていくのかどうか懸念はある。何年か経過を見てみないとわか

らないところがある。(大炊委員)

- 4 5 経営体の用地面積数はどの位か。(熊田分科会長)
- 農政課に確認を行う。(事務局)
- 認定農業者数については、達成状況としては「達成」している。(熊田分科会長)
- 認定農業者数が増えると耕作面積数が増える気がするが、そうではないのか。(白土委員)
- 結果として、その可能性は高いと考えられる。(事務局)
- 新規就農者が認定農業者を受けているので増えていると考える。既存の農家が認定農業者になっているというよりは新規就農者が認定農業者になっている。(大炊委員)
- そういうこともあるのか。(白土委員)
- 若いやる気のある農業者が認定を受けている。(大炊委員)
- 単純に農業に携わっている人が増えているとは必ずしも言えないということか。(白土委員)
- 市外から我孫子で農業を行いたい新規の方が来て、農地を借りて実施している件数は増えていると聞いている。(大炊委員)
- K P I としては良いと思うが、新規認定農業者と同様に経営体の数も増えてくればよい。(熊田分科会長)
- それから農業の付加価値を高めるためどういう取り組みを行うかになる。(熊田分科会長)
- 「1 0 . 農産物の加工施設を有する農業者数」は、目標値 8 経営体に対し 2 9 年度は、5 経営体と実績は上がっていないというところで、達成率は「遅延」となっている。
「1 1 . 農業拠点施設で販売供給する我孫子産農産物の新開発の加工品数」は、目標値 5 種に対し、2 9 年度は 8 種できているので、達成状況は「達成」となっている。
(熊田分科会長)
- 品数を増やすよりも売り上げ(金額)を見ていかないとわからないと昨年度話になった。ところが農政課が、金額の提示ができないという話でこうなっている。(熊田分科会長)
- 計測がやはり難しい。(事務局)
- 品数が増えているのは、5 経営体の中のいくつかの経営体の方が頑張って品数を増やしている。(大炊委員)
- もう少しざっくりした見方をすると、農業の付加価値を高める取り組みとして、新規開発加工品の数を見ていく K P I でも良いと思うが。(熊田分科会長)
- お客様も少ない種類よりは多い種類の方が選択数が増えるので、1 つの魅力づくりというところでは貢献しているのではないかと思う。(大炊委員)
- 生産者の顔となる主力商品が何種類かあるのが一番の理想となる。広く薄くだとコストばかりがかかり、例えば、ラベル代など何万枚も注文しないとコストが高いままとなる。1 0 万枚を発注してくれると 0 . 2 円とかになるが、発注枚数が少ないと 3 円とか 5 円ともものすごく高い。そういうのを考えると数を売っていくことと開発というのは同時進行となる。(山内委員)
- 生産者の数だが、スーパーの中では非常に増えていて 1 人の方が 3 万～ 5 万持ってく

る。年間収入にすると1,500万円から2,000万円程度になる方がいる。そういうルートを確立すれば、契約するので安定収入となる。どこでもそうだと思う、イオンもマルエツにしても契約して行うので、途中でやらないってことではない。そういう設営も市の方で研究して、我孫子市内から出ていくことも必要ではないかと思う。アリオ柏は、柏と我孫子市からも納品しているが、うちと契約すると何店舗かに行っていただく。そういうところと契約できれば、実施する方が増えると思う。増えれば当然作物は3種類程度しか年間作れないので、作付けも増えてくると考える。JAばかりだと広がっていかないと思う。流通関係は、JAと直接行うことはない。どうしても民間は、中間マージンを省きたいと考えている。そういう流れもあるということを入れておいていただきたい。(山内委員)

- 次に「地産地消の推進と農のにぎわいづくり」を検証する。(熊田分科会長)
- 遅延事業を見ていくと、地産地消推進協議会の会員数の目標値が210人に対し、29年度は153人しかいなく達成率が307%になっている。新規加入者を上回る退会があったというところで、高齢者の活動の継続が難しいとなっている。(熊田分科会長)
- B班の協議が終了したので、「地産地消の推進と農のにぎわいづくり」から、次回の協議とする。(熊田分科会長)

グループ間での情報共有について

- どのように状況共有を行えば良いか。(熊田分科会長)
- グループ協議はよいが独立しすぎている部分がある。より網羅的になりにくくなってしまう。(熊田分科会長)
- 女性としてむしろB班の方が若干興味がある。(大炊委員)
- 山内委員も人口等に興味があると思うが。(熊田分科会長)
- 子育て世代は、ターゲットとなるので非常にその動きは気になる。(山内委員)
- 金融機関から見るとどうか。(熊田分科会長)
- 基本目標3・4の事業をきちんと行わないと人口は増えていかない。また、基本目標4の中にある電車の問題やバスの問題など、市内の移動手段は大きく人口動態に関わってくる。(白土委員)
- 基本目標1と2は現在進行形の話で、基本目標3と4は未来の話となる。そういう見方をすると、やはり重要なことには間違いない。どのように共有したらよいか。(熊田分科会長)
- 情報の共有は、第3回か第4回の有識者会議となる。次回に時間をいただき、B班でどのような案が出ているか確認し、どういう共有の仕方があるか協議していただく形でよいか。(事務局)
- クロスでも良いと思うが、A班で話し合って結果を出したものを報告しながらB班に意見を求める。逆にB班の結果についてA班として意見を言うという形が良いと思う。(山内委員)
- そうであれば、共有する事業をピックアップした方がよい。(熊田分科会長)

- B班は、人口など具体的に数字がでる事業が多いが、A班は、具体的な数字が結構でない。(山内委員)
- A班は、目の前の課題が多い。(熊田分科会長)
- 売り上げなのか定数なのか、その辺の意見を聞きたい。(山内委員)
- 本日は第1回の協議ということで、昨年度の協議から半年以上開いているので、資料の読み返しを含めて第2回の協議に繋げていきたい。(熊田分科会長)

以上

意見等【B班】

- ★ K P I を今年度から変更した事業については、上下に旧新が記載している。
各グループにおける評価方法を検討していただく。昨年度は、1事業ごとの検証に時間を要したため、全体での情報共有時間が少なかった。そのため、今年度は、全体の情報共有時間をもう少し取れるように進めていただきたい。(事務局)
- 本グループについては、昨年度に引き続き、基本目標3「あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」と基本目標4「あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり」について評価することとなる。基本目標には、それぞれ3つの数値目標が設定されており、その下に総合戦略の基本的方向が示され、各事業がぶらさがっている。その事業を個別に検証し、「順調・ほぼ順調・順調とはいえない」という評価をするとともに、目標の取り組みに対する意見をまとめていくことになる。(委員長)
- 昨年度は、個々の事業を検証したため、内容を細かくみることができたが、A班で検証している基本目標1と2についての意見交換等はあまりできなかった。
第4回の有識者会議での市長への報告は、こちらのグループは、基本目標3・4を中心に報告することになると思う。(委員長)
- 今年度は、昨年検証した基本目標にそった事業に加え、交付金対象事業の検証もすることになるのか。(高橋委員)
- そのとおりである。基本目標についての検証では、昨年度、事業ごとに細かく検証していただいたおかげで、K P I の見直しにもつながった。昨年度からの継続事業であっても、変更・拡充しているものは、検証の際に事務局から補足説明させていただく。また、基本目標3と4は、ぶらさがっている事業の本数が多いので、検討する時間配分をご検討いただいたほうが良いと思う。(事務局)
- では、第2回は基本目標3を中心に、第3回目には基本目標3の残りと4を検証していくということでどうか。(委員長)
- 交付金対象事業については、いつまでに検証すればよいのか。(委員長)
- 交付金対象事業については、今日できるところまでお願いしたい。今日は、グループに分かれて検証しているため、今日の検証内容を事務局でとりまとめ、第2回に全体に報告できるようにしたいが、今日の議論で質問や積み残しがあれば、次回に持ち越す。(事務局)
- では、交付金対象事業について、検証をしていく。(委員長)
- 初めての検証なので、事業の概要等について、改めて説明する。(事務局)
- 全体説明の中で、K P I と事業が合致していないものもあるというご意見をいただい

たので、そちらも意見として反映する。(事務局)

- 資料3「平成30年度地方創生推進交付金の活用」の説明をお願いしたい。(山岸委員)
- 地方創生推進交付金は、29年度に引き続き、30年度も申請しており、採択された事業の概要である。29年度と30年度の交付対象事業の違いについて、説明する。29年度までは、交付金の内定が6月であったため、事業の契約が内定日以降の事業でないと交付対象事業とは成り得なかった。そのため、29年度は申請したが、この理由で交付金対象事業とならなかったものはいくつかあり、その代表がリニューアルしたプラネタリウムの運営費となっている。しかし、市の事業は、その大半が4月から始まるため、各市町村が交付金の内定をもらう前であっても、対象となるよう交付金の要件を見直ししてほしいと要望を続けてきた。その結果、30年度からは、4月から始まる事業であっても交付対象事業として認めていただくことができるようになった。(事務局)
- 交付金事業に係る有識者会議での評価結果は、国へ報告するのか。(小澤委員)
- そのとおり。(事務局)
- 国への報告には、交付対象外の事業も含めるのか。国へは交付金の対象となった事業がKPI達成にどの程度、効果があったかを報告すれば足りるように思うが、交付対象外の事業も含めて国へ報告するのであれば、財源内訳などをしっかり明記するなど報告の仕方を工夫した方が良いだろう。(小澤委員)
- 事業は実施してはいるが、交付金の対象とならなかった、また、事業を実施することができず、交付金の対象とならなかったということであれば、評価する必要はないと考える。(委員長)
- 事業の財源内訳が明記されれば、その事業は必要であったため実施したが、結果として交付金がもらえなかったという評価をするか、評価項目から削除するかのいずれかではないか。(委員長)
- 例えば、オリンピック関連事業は、交付金の要件が変わったというだけの理由で、29年度は対象とならず、30年度は対象となっていることを考えると、交付金をもらっているかももらっていないかで評価が変わるのはどうなのか。プラネタリウムも実際には支出していて、交付金がもらえなかったというだけではないか。(山岸委員)
- KPIは、事業がすべて実施される前提で設定されているので、評価シート自体から交付対象外の事業を削除することは難しいが、評価していただくのは、交付金対象事業のみでよい。交付金の対象外となった事業については、理由を事務局で明記した上で、国に報告する。(事務局)
- それでは、交付金対象事業の評価に移る。
- 事務局から、簡単に概要を説明する。
- 「1. 地域資源を活用したスポーツ推進事業」のうち「日本女子オープンゴルフ選手権におけるあびこPRプロジェクト」は、選手権が我孫子で開催されることに伴い、市外等からくる方に我孫子をPRするため、市が中心や商工会などが中心となって、さまざまな取り組みを行った。来場者へのパンフレット配布や商店街等へののぼり旗の設置、我孫子出身のプロゴルファー青木功氏のふるさと大使任命式とトークショーなどを行った。さらに、アマチュアで1位になった方に市長賞として、お米1年分と

我孫子のキャラクターうなきちさんのぬいぐるみなどを贈呈した。(事務局)

- また、多くの市民の方にボランティアとしてご参加いただいた。(事務局)
- K P Iとして設定している「スポーツボランティア養成講座」については、日本スポーツボランティアネットワークから講師をお招きし、定員20人として、市民の方を対象に年2回開催した。(事務局)
- K P Iは、受講者数ではなく、修了者数としているという理解でよいか。(委員長)
- 1回目は、定員を上回る申し込みがあり、抽選を行った。(事務局)
- 女子オープンは、川村学園女子大学からも、学生がボランティアとして参加した。市の魅力発信室や地域の方たちと協力して活動することができ、学生のアクティブラーニングにもつながった。また、中央学院大学とも一緒に活動することができ、我孫子を知る良い機会となった。学生自身も毎年やりたいと言っていた。(高橋委員)
- この女子オープンの事業によって、市への来訪者が増えたという実績はあるのか。(山岸委員)
- 当然、あると思う。(事務局)
- 29年度は、このおかげもあって来訪者が増え、29年度のK P Iの達成には良い結果となったが、30年度以降には課題が残るのではないか。(山岸委員)
- 市外からの来訪者を増やすこと、交流人口の拡大という観点では、K P Iの目標達成につながっている取り組みだと考えられるのではないか。(委員長)
- このイベントを実施した月の来訪者が増えていれば、この事業を評価することができると思うが、月ごとの数値というのは把握しているのか。(山岸委員)
- 確認して、次回には提示する。(事務局)
- アビシルベでは、文豪のパネル展なども実施しており、来訪者は増えていると聞いている。それにより、図書館や白樺文学館等への来訪者も増えていることが予想される。(高橋委員)
- 学生は、文豪シュミレーションゲームの影響で、図書館に行く機会が増えているので、何か展開できると良いのでは。(高橋委員)
- 市の事業とタイアップすれば、交付金がもらえるかもしれない。(事務局)
- では、イベント実施時の月次実績を提示いただき、次回、評価を改めて行う。(委員長)
- 大幅に目標値を上回る実績となったのは、何か要因があったのか。(小澤委員)
- 昨年度は、オープンしたばかりということもあるかと思う。また、29年度分については、オープンが6月であったため、例年の月より2月分低く見込んでいること、目標値を積算する上で、県で運営していた時の実績をもとに算出していることなどが考えられる。(事務局)
- 「2. 手賀沼沿いのウォーターサイド整備事業」のうち、「プラネタリウム管理運営業務」と「我孫子産農産物の品質向上のための生産履歴システムの導入」が交付金をもらっていない理由を説明してほしい。(委員長)
- 生産履歴システムについては、事業者が決定したものの、事業者の都合により、システムを導入できない状況となり、急遽、交付金が受けられなかった。そのため、30年度、改めて交付金を申請している。(事務局)
- 事業評価として、事業が履行できなかった理由を評価する必要はないという理解でよ

いか。(委員長)

- そのとおりである。(事務局)
- プラネタリウムについては、交付金の要件に合致せず、交付金は受けられなかったものの、事業は実施しているという状況である。(事務局)
- 29年度の新規事業としては、「水辺のランニング・ウォーキング環境の整備」がある。内容としては、手賀沼遊歩道を拠点に、ランニングイベントを実施したほか、ランニングマップの作成と手賀沼遊歩道への距離表示板の設置を行った。しかし、ランニングイベントは、他からの助成金を受けているため、交付金の申請はしていない。(事務局)
- じゃぶじゃぶ池は、29年度は実施設計のみなので、直接K P I への影響は出ていない。(事務局)
- 鳥の博物館における企画展は、月次の来館者数がわかるので、確認する。(事務局)
- 鳥の博物館の企画展は、年に1回程度実施しているのか。(小澤委員)
- 毎年、数回は実施している。29年度は、酉年を記念して、秋篠宮様も研究されていることもあり、特別企画展を開催した。(事務局)
- ランニングマップの配布はもう終了したのか。(小澤委員)
- 体育施設などに配置している。(事務局)
- 今後、増刷する予定はあるのか。(小澤委員)
- 予定はない。(事務局)
- 文化スポーツ課で置いてあると書いてあるが、他には置いていないのか。けやきプラザやアビシルベなど、他には置いていないのか。わざわざ、教育委員会までもらいには行かない。(高橋委員)
- ホームページには掲載しているのか。(坂巻委員)
- 配置場所、ホームページは確認する。(事務局)
- アビシルベやけやきプラザ、水の館など、多くの方に手に取っていただける場所に配置した方がよい。(小澤委員)
- K P I の達成に向けて、ランニングの聖地となるような取り組みが効果的ではないか。(委員長)
- 手賀沼周辺は、ランニングやサイクリングの聖地として知られている。(坂巻委員)
- チームランの対象年齢は。チラシは小中学校に配布しているのか。(坂巻委員)
- 小学生が参加するキッズランと大人が参加するチームラン、親子で参加する親子ランがあった。今年、所管課が変わったが、基本的な内容に変更はない。チラシは小中学校に配布している。(事務局)
- ランニングには、パウダーを使っている色々な色になるパウダーランやシャボン玉の中を走るバブルランなど、おもしろいイベントがたくさんあり、工夫次第で集客できる。(坂巻委員)
- 中央学院大学の学生がボランティアとして参加しており、楽しかったと言っていたが、今年も協力していきたい。(委員長)
- 所管課に伝える。(事務局)
- 記念品はあるのか。(坂巻委員)

- 昨年度は、うなきちのタオルを作った。(事務局)
- オリンピックのバッジなどをよく集めている人がいるが、記念品が良いもので、ブランド化していくと、それが欲しくて毎年参加する人が増えるのではないかと。(坂巻委員)
- 工夫をすれば、集客効果のあるイベントになる。(事務局)
- 例えば、ポケモンGOのイベントとタイアップするということも考えられるのではないかと。(坂巻委員)
- JRなどでも、アプリを活用したスタンプラリーを行っている。大学説明会でもスタンプラリーを行っている。多くは、スタンプだが、マチアルキのようなAR(拡張現実)アプリを活用しているところもある。全部集めると、景品が出るため集客、周遊効果が期待できるし、観光情報等の提供も併せて可能である。ランニング中にスタンプを押すのは難しいので、こうしたアプリなどが活用できると良いのではないかと。(委員長)
- ランニングイベント自体は、29年度からスタートしたばかりであるため、今後、さまざまな工夫ができれば、近くにある水の館の来場者増にもつながる。(事務局)
- 都内では、カフェとタイアップして、シャワールームがあったり、早い時間から開けている。ランニングなどで有名になれば、手賀沼周辺にもお店などができ、活性化につながるのではないかと。(坂巻委員)
- PRの話ができたが、シティーセールス事業も交付金対象事業として実施されているが、すべての事業が対象となっているのか。(委員長)

***ここから、「3. 我孫子の魅力発掘・発信・シティーセールス推進事業」の意見交換**

- 同じことをやっているだけの事業は、交付金の特性上、対象外となる。27年度にあびこの魅力発信室が設置されて以降、ラジオなどを活用した情報発信を継続的におこなっているが、特に新しい取り組みがないと、交付金の対象外となっていくため、毎年、新たな取り組みを入れるよう工夫をしている。29年度は、渋谷の大型ビジョンでのCM放映を行い、注目を浴びた。
近くでは流山市が有名であるが、我孫子市も、保育園の待機児童ゼロを31年間堅持していることをはじめ、子育てしやすいまちを目指してさまざまな取り組みを行っているため、もっとPRすべくポスターを作成した。(事務局)
- このほか、昨今増えている外国人に日本での生活ルールを周知するため、ホームページに3か国語対応の機能を追加した。さらに、今年度はベトナム語への対応も追加した。(事務局)
- 確か、ブックカバーを作成していたと思うが。(高橋委員)
- 28年度に作成して好評だったので、30年度、再度実施している。(事務局)
- 一度も目にしていない。(高橋委員)
- 市外の人へのPRとして配布しているので、都内などの駅中の大きな書店に置いている。(事務局)
- 学生たちも欲しくて、市内等の書店を何店舗も回って本を買ったが、だれも知らず、全く手に入らないと嘆いていた。(高橋委員)
- 市内の書店で配布すれば、市内の店の売り上げも上がるなどの効果も考えられる。また、そのために本を買っている学生などにもPRできるということであれば、今後、配布場所などは検討する必要がある。(事務局)

- 事務局から、検証結果を次年度の当初予算に反映できているというお話をきいている。検証の中で、来年度以降の事業につながる議論もしてよいと認識でよろしいか。(委員長)
- そのとおりである。(事務局)
- 個別の事業を議論するだけでなく、総体的に議論し、予算に反映できることは大事であるとする。(委員長)
- シティーセールスについては、その他意見があるか。
- 本事業は、基本目標でも対象となっている事業となっており、A班で検証されており、昨年度は、厳しいご意見もいただいている。(事務局)
- JR内の広告は値段が高いのか。我孫子に途中下車してもらうためのPRなどできると良いのではないか。(山岸委員)
- JRの子会社が管理しており、広告を掲載してもらうこと自体が難しい。(事務局)
- 東武野田線は、「東武アーバンパークライン」と名称を変更したように、「常磐線」も「常磐アートライン」と名称を変更することはできないのか。(高橋委員)
- 4区4市、JR、東京芸術大学が加盟しているJOBANアートライン協議会においてもその議論もしたが、結果としては、全国的に名称を変更するため、多額の費用がかかるということで、実施に至らなかった。(事務局)
- 東武野田線は何故できたのか。(高橋委員)
- はっきりしたことはわからないが、私鉄ということで、常磐線ほど影響がなかったのではと考える。(事務局)
- 次回、事務局にデータを提示してもらい、KPI数値が事業の実施によって増えたかを確認するとともに、全体的に再度検証を行うということにしたい。(委員長)
- 次に、「4. 移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業」についての概要を事務局から説明していただきたい。(委員長)
- 雇用の創出を目指し、さまざまな取り組みをしている中、交付金対象として、新たな企業の進出を目指し、産業拠点検討調査業務を実施したほか、起業を目指す人を対象とした個別相談会や情報交換や人脈拡大を目的としたビジネス交流会を申請した。(事務局)
- 目標値としては、これらの事業を行った結果、雇用が増えたことがわかることだと考える。(事務局)
- 工場集団化も、何をもちてKPI値にするのかが決まっていないが、雇用創出というのは、何を施策の目標値にすればよいのか難しい。(委員長)
- 確かに、A班で昨年度、評価をしてもらった際にも、我孫子市の産業は、調査は行ってきたが、早期着手を目指すべきであるとの厳しい意見をいただいている事業である。KPIは、雇用の創出数が設定されることが望ましいが、31年度までには、雇用を生み出すまでの事業展開は見込めないことから、具体的に取り組みを始める場所の数をKPIに設定せざるを得ない。(事務局)
- これまでは、企業が我孫子に進出したいと申し出があっても、誘致できる土地がわからない状況であった。今回、産業拠点検討調査を実施したことにより、紹介できるデータがそろった。また、調査においては、事業者とのヒアリングも実施していること

から、どのようなニーズがあるのかも把握することができた。という点では、効果はあった。(事務局)

- 企業の誘致は、誘致構想の策定、工業団地適地の選定、用地交渉、団地造成、実際の誘致活動など多段階のフェーズがあり、5年という計画期間もある中で、成果とする事項やその評価指標設定が非常に難しく、団地ができて景況や業況等の影響もあり、すぐに来てくれる事業者もいるかどうかわからない。(委員長)
- 昨年度までは、NEC 事業所内での工場集団化を目指し、事業を進めてきていたため、他の土地での詳細な検討はしてこなかった。(事務局)
- 誘致する土地への申し入れがいくつかの企業からあったか、いくつかの企業と契約できたか等は、現時点のKPIとしては馴染まないと考える。(委員長)
- 既存の工業団地があれば、年間の相談件数が何件あって、うち契約数が何件あったかなど、成約率のような指標が考えられるかもしれないが、まだ、その前の段階ということがわかった。(委員長)
- イベントや相談会などは、参加者数や実際の企業数がわかるので、評価しやすい。(委員長)
- 交付金対象事業に対する意見は、だいたい出たと思うが、次回以降のスケジュールをどうしていくか。(委員長)
- 次回は、交付金対象事業の評価をしなくてはいけないので、ボリュームが一番ある基本目標3を全部終わらせるのは難しいと考える。(委員長)
- 次回の進み具合にもよるが、基本目標1と2については、2回目と3回目でご意見があればご発言いただき、質問があれば、事務局で回答できるようにする。グループ間での情報共有時間がとれなければ、事務局で意見をすり合わせる。(事務局)
- グループでの作業は、基本目標3と4の評価を最優先とし、4回目の市長懇談の前の時間を利用して、A班との意見集約をしたい。(委員長)
- 基本目標1と2の中にも、基本目標3と4の事業と連動しているものがいくつかある。先ほど議論した常磐線やシティーセールスなどは、基本目標1と2の中に含まれている。そこで、2回目3回目の中で、基本目標1と2についても質問があれば、ご意見をいただければ、事務局でとりまとめる。(事務局)

5 今後のスケジュールについて

スケジュール調整を行ったが、合致する日程が組めないため、再調整することとした。

意見等
なし